

我が家に飛来したアサギマダラ

三橋 寛治

アサギマダラという蝶々がいます。10月3日、家内がアサギマダラを見に行こうと誘いました。それがどんな蝶々かも知らず、家内に同行して出かけました。JR 京都駅で山陰線に乗り換え、嵯峨野駅の一つ先の保津狭駅で降りて、マイクロバスに乗り溪谷沿いに15分ほど走り、そこから徒歩で12～13分行ったところに「水尾」という集落があります。そこには河原の平地にフジバカマという植物が群生しており、そのフジバカマに蝶々が群がっていました。アサギマダラの大きさはアゲハチョウ程度の大きさで、羽の模様が独特な模様（写真参照）でした。この蝶々を見るために多くの見物客が地方から押し寄せて、あちこちでカメラにその姿を収めていました。この日は京都新聞社の方も撮影されていて、今日の夕刊に載せるとのことでした。私はアサギマダラのことを初めて知りました。

アサギマダラはこの地で休憩をしたのち、南方に向かうのだそうです。そして、冬の間は喜界島（奄美大島の東方にある小さな島）や与論島、台湾あたりまで移動し、そこで産卵して2～3度脱皮を繰り返して、その後、蛹（さなぎ）から成虫になり、春から夏にかけて北上を開始し、遠く北海道の上の国町（江差の近く）まで移動するとのこと。マーキングによる観測データから色々なことが判明しつつあるとのこと。喜界島等の洞窟の中に密集して越冬している場所が見つかったとのこと。移動中の中継基地として、大分県の姫島（四国寄りの小さな島）が有名で、全体の移動距離は約2,000kmに達する大移動になります。

このアサギマダラが好むフジバカマという植物は普通の花屋では見かけたことはありませんでしたが、家内がどこからか見つけてきて、翌年の春に我が家の庭に1本植えました。それがうまく根付いて秋が近づくと、菊の木と同等程度の大きさに育ち、9月下旬頃花（写真参照）を咲かせました。



フジバカマの花

10月10日外出先から戻ってきたとき、ふとフジバカマを見ると、そこに蝶々らしきものがぶら下がっていました。近づいてよく見るとなんと、アサギマダラが1匹やってきたのです。フジバカマの蜜を吸



我が家の庭に飛来したアサギマダラ

ってその周りを飛び回っています。蜜を吸うのをやめると、下枝の見えにくいところにぶら下がってじっとしていました。翌日も翌々日も1匹だけがフジバカマの周りにいましたが、それから10日位のちに急に秋風が吹いて季節の移り変わり目が来たのを感じました。

その日を境にアサギマダラは来なくなりました。きっと季節風に乗って南方へ旅立って行ったのでしょう。不思議な気持ちで、風で庭木が揺れているのを眺めていました。なぜわかるのだろう、それまでも風の吹く日はありましたが、明らかに季節風だと分かるあの風を待っていたのです。か弱い2枚の羽根だけで今日ほどこまで飛ぶだろう。旅行カバンも持たず、携帯も持たず、天気予報も見ず、無鉄砲に素手で長距離移動をしていく超能力の蝶々に、すごい！と感じざるを得ませんでした。

2017年12月

参考文献：「アサギマダラ的神秘」 <http://home.r07.itscom.net/miyazaki/zakki/asagimadara.html>

参考までに；アサギマダラと同じようにアメリカ大陸を縦断する蝶々もいます。Wikipediaによれば、オオカバマダラ、通称モナークという蝶々は、カナダからメキシコまで約4000キロを旅するとのこと。カナダの草原で育った幼虫は秋、さなぎから成虫となり、渡りを開始しメキシコを目指します。